

<概況>

枯草の跡もしっかり緑におおわれ、初めてモニターをした時の景色に戻ってきた気がします。

23号線橋脚増幅工事は付帯設備が撤去され、真っ白い橋脚が2倍の大きさになって現れました。上塚橋の橋脚補強工事は付帯設備を撤去中でしたが、白くなった橋脚が2本現れました。濁水期の工事はすべて終わったようです。

<観察>

23号線下流

5月7日 11:00

水深40センチ、若干濁りあり、底まで見える。

4～5センチの小魚多数、ひらうちするグループとそうでないグループの2種類あり。25センチの中型5匹遊泳中

5月22日 11:00

水深35センチ、若干濁りあり、底まで見える。

前回と比較すると小魚のグループの大きさが3分の1程度になっていた。

粘土底の水たまり

5月7日 11:30

2～3センチの小魚多数

5月22日 11:30

4～5センチの小魚の集団と2センチの小魚がパラパラみられた。

この日は水量が少なく久しぶりに本流を覗くことができた。風波が立ち、見にくかったが、4～5センチの小魚の集団がみられた。

緑地公園

両日とも人影はまばら、平日の昼間は人出はないといえる。

水質浄化のため植えたと聞いている葦は0.7～1.0メートルに伸び、枯れ色から若葉色に変わった。川中には白サギが5匹いた。

<疑問>

安城市内の小河川は田の代掻きで白黄濁し、透視度は5センチにも満たないが、矢作川は40センチもある。なぜか？

①矢作川の流域面積のうち田畑の面積が少ない。そのため小河川から流入する濁水が薄められ、透視度が維持される。

②ダムがたくさんあり、そこで濁りのもとが沈殿し、きれいになった水が流されるなど推測するが、どうでしょうか。

<フォロー>

水槽に入れた小鮎は大きくなりませんが、まだ生きています。

同じく小魚は3～4センチに成長し、縦線がくっきりし シラハエではなく、タモロコのようなようです。カワバタモロコとの区別はつきません。

以上